

日高市立高萩小学校だより

はぎっこ

目指す児童像

ふるさとを愛し、
生きていく力を育む
萩っ子



令和7年度9月号
校長 原 政幸



「突き抜けて 天井の紺 曼珠沙華（山口誓子）」

ここ数年は、夏の暑さが厳しく連日のように猛暑日となりました。7月の日本の平均気温が3年連続で過去最高を更新しました。埼玉県においては、猛暑日が既に40日を数え、過去最高に近づいています。8月26日の始業式の朝は「おはようございます！」と元気な挨拶とともに登校する子ども達の姿がありました。学校の主役はやはり子ども達です。高萩小がいつもの活気を取り戻しました。

さて、7月の30日に高萩小・中合同の地域学校保健委員会が行われました。「防災」を小中共通のテーマとし災害支援・防災コーディネーターの宮崎賢哉様を講師して実施しました。小中の教員、保護者、生徒が6・7人の班となり全12班で「HUG（避難所運営ゲーム）」を行い災害時の学校・地域の役割を考えるという内容でした。このゲームは、学校避難所を舞台に参加者は避難所運営を任されたという想定のもと、次々にやってくる年齢、性別、被災状況が異なる避難者に迅速且つ適切に対応できるかを疑似体験するものです。午前5時に震度7の地震発生、ライフライン断絶、晴天、避難所開設8時、体育館が避難所という想定でした。

実際に行ってみると「避難所の動線の確保」「避難者の駐車場の位置」「避難者家屋の状況」「高齢者や幼児への対応」「支援物資の置き場所」等対応し決定しなければならないことが次々と生じました。班の人たちと意見を出し合い、避難者の居場所等を決めていくのですが、瞬時に高度な決断の迫られる緊迫した避難所運営のシミュレーションでした。参加した中学生の感想に「運営した身として、色々な条件の中から、最も良い手段を選ぶのが難しかった」「実際に起きたら頭も混乱しているだろうし、普段あるものがあるとは限らないから、普段からの備えが大切だと思いました。」などの自分事として捉えたよい感想がたくさんありました。小中の保護者と教員、そして、中学生が真剣に避難所運営をともに考えられたことに大きな意義があったと思います。9月1日は「防災の日」です。大きな地震に限らず、昨今は、気温上昇に伴うゲリラ豪雨や台風など災害がいつ起こるか分からない状況です。本校が避難所になる場合を想定しておかねばなりません。この避難所運営ゲームで得た教訓を生かしてまいりたいと思います。

冒頭の「突き抜けて 天井の紺 曼珠沙華」は突き抜けるような高く青い秋の空、そんな天井の紺色の下に赤い曼珠沙華が咲いている情景を詠んだものです。清々しい秋の晴天に萩っ子達が秋の訪れを喜ぶ、そんな日が早く訪れてほしいです。まだまだ、残暑が続きますが、子ども達にとって個別に最適な学習、子ども達が仲間と協働的に学ぶ学習を展開し、主体的で対話的で深い学びが実現するよう、教職員一同力を合わせて教育活動を展開してまいります。「早寝・早起き・朝ご飯」を合い言葉に、生活のリズムを家庭から学校へ戻して、規則正しい生活を送ることが子ども達の学力向上につながります。行事の多い2学期が充実した日々になるようご支援、ご協力をお願いします。



◇ 真剣に避難所の運営をシミュレートしました